

会誌目次

「巻頭言」	会長挨拶	辰村 米吉	2
日本大学理工学部創設60周年・短期大学部			
(習志野校舎) 創設30周年記念式典挙行			
記念行事として校舎施設見学会実施			
高工時代の思い出			
入学の頃の思い出			
部会だより			
"	土木・建築		4
"	機械		5
"	電気・工化		6
"	薬学・数学		7
"	物理・交通		8
学科教室だより			
海洋・航空			
地方支部だより			
北海道			
"	山形県・愛知県・埼玉県		11
"	鹿児島県・愛媛県		12
"	岡山県		13
職域支部だより			
桜都会			
"	清水建設(株)支部		15
本会関係記事			
事務局			
正会員終身会費55年度納入者			
" 18			
地方支部職域支部一覧表			
" 21			

桜工

日本大学工科校友会

No.63 1981



「巻頭言」



御挨拶

会長 辰村米吉

日本大学理工学部は大正9年に、その前身である高等工学校が創設されており、本年は

満60周年の年であります。昨年10月27には、理工学部創設60周年及び短期大学部（習志野校舎）創設30周年記念式典が盛大に催されましたことは誠に御同慶の至りであります。本会からも理事全員、地方支部長、職域支部長の皆様にも御参会を願い、祝意を表したわけであります。その他、「桜工」の理工学部60周年記念号の発行と駿河台校舎及び習志野校舎のバス見学会を記念事業として催すことが出来ました。

現在、日本に約420校の大学があり、その在学生数は175万人と云われております。その内、官立と私立に分けると私立が140万人であります。

日本大学は7万人の学生を擁しておりますので、日本の大学教育にしめるシェアは5%の多きに達しております。

又、理工系の学生数を見ますと、日本に於ける総数は27万人で、官と私に分けて私立が19万人であります。我が理工学部は実に10%のシェアを持っております。更に日本大学、理工系、3学部を合せますと、20%のシェアとなります。

これは現在の学生数のシェアであります、このシェアをベースとして、60年の積み重ねが高さとなつた、ピラミッドを形成して居るわけであります。

我が工科校友会の会員総数は12万人を超えるに至りました。これは日本大学全体に対しても20%強のシェアを持つものであります。

やがて来る日本大学創立100周年に向って、日本大学はますます発展、充実をするものと、我々は念願してやまない次第であります。又、我々はこの日本大学出身者であることに大いに誇りを持ちたいと存じます。

最後になりましたが会員諸士のいつも変わらぬ愛校心に敬意を表し、ますますの御活躍を祈念致したいと存じます。



日本大学理工学部創設60周年・短期大学部（習志野校舎）創設30周年記念式典挙行

昭和55年10月27日(月)午後6時よりホテルニューオータニ鳳凰の間にて鈴木勝総長、加藤涉理工学部長はじめ来賓、教職員、838名の参加のもとで盛大に行われた。加藤涉理工学部長の挨拶の後、来賓代表として日本学術会議長伏見康治博士が祝辞を述べ、つづいて本会長辰村米吉が祝辞を述べ、祝宴がはじまり午後8時終了した。



記念行事として校舎施設見学会実施

昭和55年10月28日(火)午前9時、記念事業の一環として、学校側の御協力により加藤涉理工学部長他諸先生、校友会役員出席し、校友、教職員52名の参加のもとで、工科校友会主催でバス運行により実施した。

1. 駿河台校舎 電算機、分析センター
2. 習志野校舎 各試験室の実験運転

午後15時見学は盛会好評裡に終了した。



◎日本大学工科校友会会誌委員

委員長 有田 耕政（電気）
委 員 木村 吉己（土木）
委 員 西村 哲（機械）
委 員 山田 翠（化学）

委 員 伊藤 和雄（化学）
委 員 羽島 博（土木）
委 員 関根 好文（電気）

委 員 藤田 幹（建築）
委 員 小池 昭一（建築）
委 員 藤原 充雄（薬学）

編集後記

今年もまた学生会員の卒業期を迎えました。会費納入件数も前年に比し相当数の増加をし、校友会の運営も活発化しました。

理工学部創立60周年記念の一環として、学校の御協力のもとに駿河台、習志野校舎施設見学及び記念特集号の発行をいたしました。部会、支部よりも多数の御寄稿を載き、御活躍の状況等活気あるものでした。特集号未掲載でした2氏の原稿を収録いたしましたので御了承下さい。なお会員住所変更の場合は必ず御一報下さい。

昭和56年3月15日発行

発行所 日本大学工科校友会
編集・発行者 有田耕政

東京都千代田区神田駿河台1-8

電話 03-293-3251 内線206

振替 東京 3-162710

印刷所 有限会社 ムサシノ総合印刷